
高槻病院心臓大血管センターにおける透析患者への心臓大血管手術の現状

常深孝太郎、大北 裕、岡 隆紀、川端 良
(社会医療法人愛仁会 高槻病院 心臓血管外科)

血液透析療法(HD)を受けている患者の死因の約 1/3 は、虚血性心疾患(IHD)や大動脈弁狭窄症などの弁膜症(HVD)、大動脈瘤といった心血管疾患と言われている。HD 患者に対する開心術は、非 HD 患者の手術と比較し全身の動脈硬化や免疫力低下から合併症を併発する可能性が高いといわれ、術前リスクスコアである Japan SCORE でも腎機能障害は単独のリスクとして挙げられている。

当センター心臓血管外科では、HD 患者における心血管疾患に対して、患者の状態に合わせ低侵襲手術であるカテーテル治療から人工心肺を用いた開心術に至るまで積極的に治療を行ってきた。

今回、当センターにおいて 2014 年 4 月から 2019 年 3 月までに心臓大血管外科手術を施行した 417 例(うち開心術を行った症例:315 例)のうち、待機的に開心術を行なった 237 例(非 HD 症例 208 例、HD 症例 29 例)について検討した。

HD 症例の内訳は、主たる手術が IHD:8 例、VHD:19 例、胸部大動脈瘤(TAA):2 例。全症例の Japan SCORE の 30 days Mortality は $14.9 \pm 11.5\%$ 。同期間中の緊急手術は上記以外に 3 例。術後狭心症症状の改善、血圧低下が改善し体重調節が可能となった症例を多く認めた一方で、病院死亡は非 HD 症例の 7 例(3.4%)に対して HD 症例は 6 例(20.6%; IHD:1 例、HVD:4 例、TAA:1 例)と高値であった。HD 症例の入院期間は非 HD 症例に比べ期間が長期化する傾向を認めた。長期化の主因として、術前の廃用進行、胸水貯留の遷延、脳梗塞や感染などの合併症に対する治療が挙げられた。

一方で術前状態が、フレイルを認めない、HD 中の血圧が維持されている、心機能が保たれているような HD 症例では、非 HD 症例と比べても遜色のない経過を辿ることが認められた。このことは HD 症例における開心術では、状態が悪化する前での手術が治療成績の向上につながる可能性があると考えられた。